

(1) 調査の目的

香川大学学生生活実態調査は、香川大学の学生がどのような条件のもとで、どのような意識をもって学生生活を営んでいるのかといった、学生生活の実態を把握し、大学の諸施策の基礎的資料として活用することを目的としています。この調査は、1986年（昭和61年）の第1回以来これまでに16回実施されており、それぞれ報告書にまとめられています。

第1回調査	1986年（昭和61年）	第2回調査	1989年（平成元年）
第3回調査	1992年（平成4年）	第4回調査	1994年（平成6年）
第5回調査	1996年（平成8年）	第6回調査	1998年（平成10年）
第7回調査	2000年（平成12年）	第8回調査	2002年（平成14年）
第9回調査	2004年（平成16年）	第10回調査	2006年（平成18年）
第11回調査	2008年（平成20年）	第12回調査	2009年（平成21年）
第13回調査	2011年（平成23年）	第14回調査	2013年（平成25年）
第15回調査	2015年（平成27年）	第16回調査	2017年（平成29年）

この調査は、第1回から第3回まではおおむね3年ごとに実施してきましたが、社会人入学、外国人留学生の増加等多様化する学生や、急速に変化する大学の教育環境を明確に把握するため、第4回からは、2年ごとに実施することとしました。第11回から毎年実施することになりましたが、第12回から従来の2年に一回に戻すことになりました。

調査内容についても、経済状況などの基礎的な調査に加えて、その時々におけるトピックス的なテーマに関する調査を実施しています。

今回（第17回）は、トピックス的なテーマに関する調査として、前回に引き続き、社会規範の遵守、犯罪の被害等に関する調査を実施しました。

(2) 調査実施期間

令和元年7月1日～8月12日

(3) 調査の対象と方法

調査に当たっては、ホームページまたは、教務システムから入力することとし、学部学生（但し、夜間主コース学生及び留学生を除く）名簿から、全学生の1/5を無作為にピックアップし、回答をお願いするはがきを送付しました。学部別、性別の回収数、回収率は、次頁に示すとおりです。

学部別、性別の回答数及び回答率

区 分	調査対象者数 (人)	回答者数 (人)	回答率 (%)	
学 部 別	教 育 学 部	1 5 3	8 8	5 7 . 5
	法 学 部	1 3 3	7 0	5 2 . 6
	経 済 学 部	2 2 1	1 0 1	4 5 . 7
	医学部医学科	1 3 9	6 0	4 3 . 2
	医学部看護学科 ・臨床心理学科	6 1	2 6	4 2 . 6
	工 学 部	2 5 6	1 3 4	5 2 . 3
	創 造 工 学 部			
	農 学 部	1 2 7	5 6	4 4 . 1
学 部 別 合 計	1, 0 9 0	5 3 5	4 9 . 1	
性 別	男 子	6 1 3	2 7 2	4 4 . 4
	女 子	4 7 7	2 6 3	5 5 . 1
性 別 合 計	1, 0 9 0	5 3 5	4 9 . 1	

・法学部及び経済学部の夜間主コースの学生及び留学生は除いています。

(4) 調査の内容及び項目

調査項目の設定に当たっては、経済状況などの基礎的な事項に加え、今回はトピックス的な事項として、社会規範の遵守、犯罪の被害等に関する調査を実施しました。

設定項目は、「Ⅰ. 基本的事項について」「Ⅱ. キャンパスライフについて」に分けられています。それぞれの質問内容及び質問数は、以下のとおりです。合計で63問になっています。

- Ⅰ. 基本的事項 : 属性 (3問)、通学方法 (3問)、経済状況 (13問)
- Ⅱ. キャンパスライフ : 学業 (9問)、課外活動 (5問)、職業選択 (7問)、社会規範の遵守、犯罪の被害等 (11問)、健康 (12問)

(5) 集計と報告書の作成

各調査項目に対する回答については、調査結果が分かりやすいように回答者の所属する学部ごとに、また、男女別でも集計し、帯グラフとして表しています。

さらに、報告書の作成に当たっては、主な調査項目について、学生支援センター会議委員が分析をおこないました。

※本報告書では、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が必ずしも100.0%にはなりません。